

## 令和2年度 ビジネス実務学科第5回FD・SD研修会実施報告

日時：令和3年3月26日（金）16:00～16:45

講師：ビジネス実務学科 教授 瀬戸就一、教授 矢澤建明

テーマ：学科の学位プログラムレベルと科目レベルで学習成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）する

参加者：藺森、藤元、井戸、越野、坂上、瀬戸、丹羽、廣瀬、矢澤、若月

欠席者：加藤、高田

本研修では、令和2年度の学習成果の達成状況を成績評価（GPA）や授業アンケート調査結果により振り返り、「遠隔授業における問題点」や「どのような授業改善が必要なのか」等について意見交換を行った。また、本学科の非常勤講師を対象に行った Web アンケート調査の結果についても報告を行った。

### 1) 本学科常勤講師で行った授業改善に向けた意見交換

- ・遠隔授業のビデオ作成や課題確認、評価等にとっても時間がかかり苦労した。特に学外の検定試験等での成果を求められる授業については、本人にある程度の段取り力や理解力、学力がなければ、遠隔授業で力を付けさせることが難しいと感じた。
- ・検定対策の授業で欠席する学生もいたが、今年の学生はよく頑張って成果を出せたと思う。
- ・遠隔授業で動画配信サイト「YouTube」へ自作の動画課題を投稿するのに時間がかかったが、良い勉強の機会となった。
- ・遠隔授業が苦手である。リアクションがないと、どう進めてよいのか分からなかった。
- ・遠隔の課題では、コピーした課題を提出する学生がいた。また、課題チェックもたいへんで画像を送信してきた学生にコメントを1つ1つ書いて返信する作業もとてもたいへんだった。
- ・授業課題の提出状況と締め切りを把握するための一覧表ファイルがあれば良かったかもしれない。
- ・覚えることが多い授業なので、遠隔授業ではしっかりと勉強していた学生に感心した。
- ・デジタルデバインドが教員側にも学生側にもあり、情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差が大きかった。自分の授業ではプリントをノートに書いて画像を撮って送ってもOKだった。録画も途中で止めて映すこともできる。
- ・スポーツ関連の授業では、遠隔課題をどのようにしたらよいのか分からなかった。
- ・遠隔授業はどんな方法が良いのか迷った。また、顔と名前が一致しない場合、評価が難しかった。
- ・欠席しがちな学生は教科書も購入していない学生がおり、「分かりません」と私語が多くなって順調に授業を進めることができなかった。

まだまだ遠隔授業において課題作成・評価方法・課題確認方法などの問題点が多く、今後もPDCAサイクルで授業改善の必要性があると実感した。

また、受講者数別 GPA の分布状況や S（秀）評価の割合を検討した。絶対評価も大事で受講人数とのバランスも必要である。今後も全員で分布状況を確認し、問題点を把握するだけでも改善につながるのではないかという認識で一致した。

## 2) 本学科非常勤講師を対象としたアンケート調査より抜粋

調査期間：令和3年3月8日～3月26日

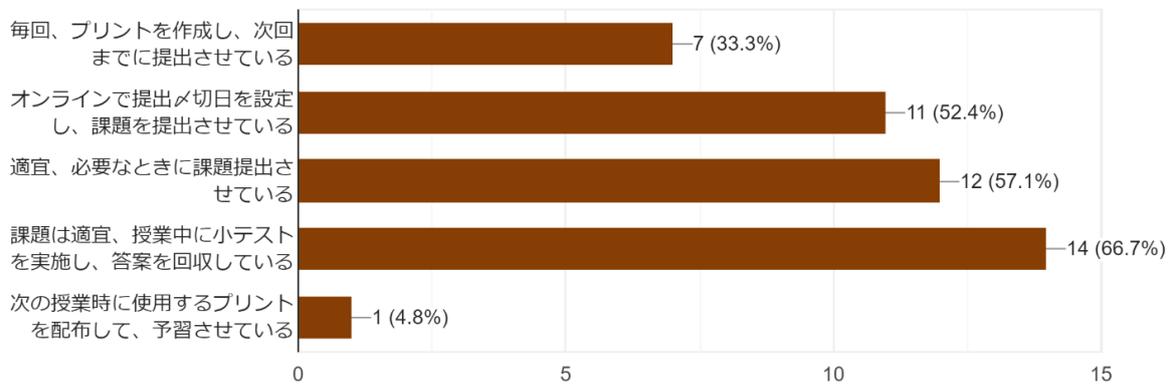
調査目的：令和2年度を振り返った授業改善、授業の課題の出し方等についての意見聴取

回答数：延べ21件（1教科につき、1件とカウント）／非常勤講師 38名中

第1問：どの程度シラバス通りに授業が実施できたと思いますか。



第3問：授業の課題の出し方について、具体的に教えてください。



第5問：授業で困っていることや授業改善に向けて、ご意見やご要望等お書きください。（抜粋）

- 学生のパソコンの知識に差があるため、授業の足並みをそろえることが、毎回の悩みです
- パソコンなどの操作においては個人差が大きいため、操作説明や用語の使用にも迷うことがあります。苦手意識のある学生には、慣れてもらうための予習や復習をさせる工夫を。パソコン操作を得意としている学生には、もう一段上のアプローチを心掛けていきます。
- 学習意欲のある学生と理解の遅い学生、そもそも学習意欲のない学生のバランスを見ながら授業を進めなければいけない点に困ります

